

石見活性化キャンペーン企画

明日へつなぐ

<34>

「経の巻」と呼ばれる巻物に似た飾り瓦が、職人の手仕事によってみるみる姿を現していく。土を彫り進める見事なへらさばきを、周りに陣取った観光客が声を出すのも忘れて見つめた。

「経の巻」と呼ばれる巻物に似た飾り瓦が、職人の手仕事によってみるみる姿を現していく。土を彫り進める見事なへらさばきを、周りに陣取った観光客が声を出すのも忘れて見つめた。

ことし3月、大田市大森町の石州瓦メーカー・セラミカの工場見学を組み入れた世界遺産・石見銀山観光ツアー。広島から約40人が参加した。「現場を見ることで、瓦がどうやって作られているかよく分かった」。書き込まれたアンケートに、企画に携わり

景観

第6部 石州瓦⑤

地域の伝統 未来へ継承を



赤瓦の街並みが残る江津本町地区。美しい景観を生かした町づくりが進められている。江津市江津町

して家を建てる人が少なく「でている」と話した地元住民になったと感じていたからの誇り高き言葉が胸に響いた。

10年前、イタリア・フィレンツェを旅行し、赤瓦と見間違ふ赤茶色の屋根が輝く美しい街並みに感激した。さらに「わたしたちは家ではなく、この町に住ん

組みとし、町(地区)全体での統一感のある景観づくりを推奨。市内で唯一、協定を締結した江津本町地区は、赤瓦や白壁の家屋など・街なみ絵画コンクールを開催し、次世代への浸透も推進。都市計画課の本雅夫係長は「全国に誇れる景観として継承していくためには、さらなる市民理解が必要だ」と将来を見据える。

約7千万円を交付し、屋根面積約7万8千平方メートルの赤瓦化を後押しした。自治会単位で赤瓦を使うよう住民協定を結んだ地域は、補助額がアップする仕

各地に伝来。中国地方では江津市や大田市のほか、出雲市大社町鷺浦地区、鳥取県倉吉市、岡山県高梁市などに赤瓦の街並みが残る。

「本町地区歴史的建造物を活(い)かしたまちづくり推進協議会」を設立。事務局長の村川立美さん(62)は「赤瓦は住民が慣れ親しんだ色。古き良きものを守

クリック

赤瓦景観 石州赤瓦は江戸時代後半以降、北前船や江の川の水運によって日本

第6部おわり (毎週月曜日掲載)